

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査 能勢町の結果概要について

### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査実施日 令和4年4月19日（火）

### 3. 調査対象 能勢町立能勢ささゆり学園 第6学年及び第9学年

### 4. 調査事項及び内容

#### (1) 教科に関する調査

第6学年：「国語」「算数」「理科」

第9学年：「国語」「数学」「理科」

※「理科」は3年ごとの実施であるが、令和2年度が中止となったため  
今年度の実施となった。

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

### 5. 能勢町の参加状況

第6学年実施児童数 49名 第9学年実施生徒数 46名

### 6. 公表に当たって

- 本町は義務教育学校1校であるため、学力における調査結果の明確な数値による公表は行わない。
- 本調査により測定できるのは、学力や学習状況、生活状況の特定の一部であることに留意する必要がある。

## 7. 調査結果概要

### ①平均正答率の府・国との比較

※大阪府比・全国比は、±5ポイント未満は「同等」、5ポイント以上上回る場合は「上回る」、5ポイント以上下回る場合は「課題がある」と表記

区 分	第6学年		
	国 語	算 数	理 科
大阪府比	課題がある	同 等	同 等
全 国 比	課題がある	同 等	課題がある

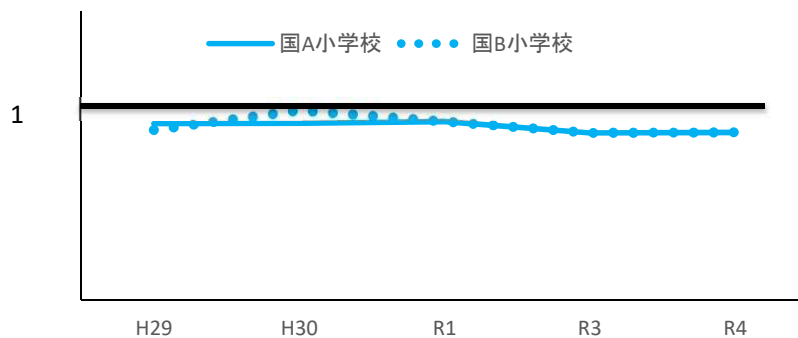
区 分	第9学年		
	国 語	数 学	理 科
大阪府比	同 等	課題がある	課題がある
全 国 比	課題がある	課題がある	課題がある

### ②平均正答率の国との比較

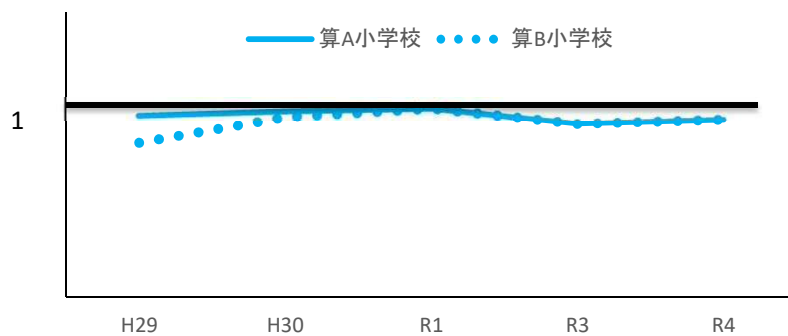
令和元年度より、国語、算数、数学においてA・Bの区分がなくなったため、A・Bそれぞれからの推移を標記した。

※全国の平均正答率を1としたときの本町各教科平均正答率の推移

#### ・第6学年 国語 経年変化



#### ・第6学年 算数 経年変化

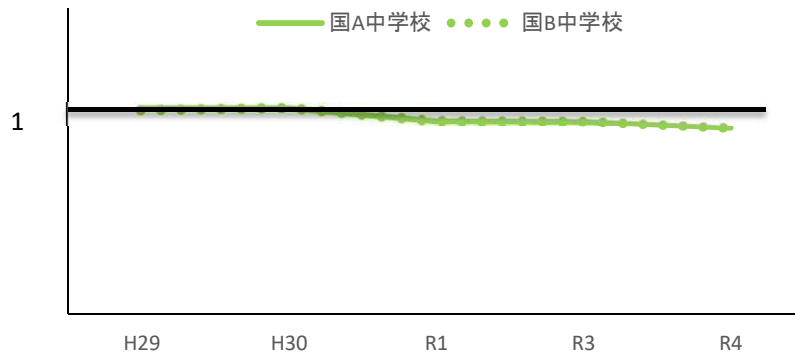


#### 第6学年

○国語・算数において全国平均に達していない。

○令和3年度に比べ、算数において全国平均との差が縮まっている。

• 第9学年 国語 経年変化

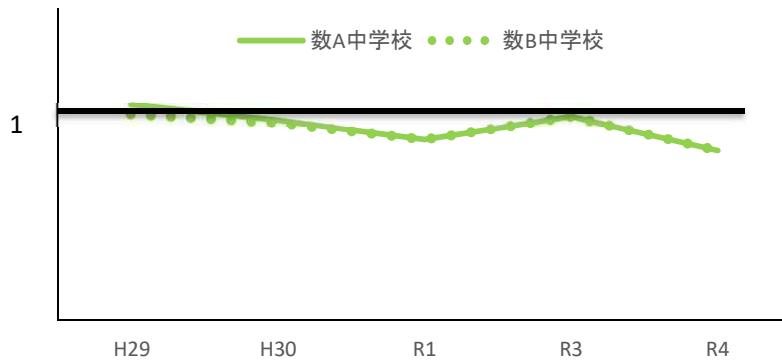


**第9学年**

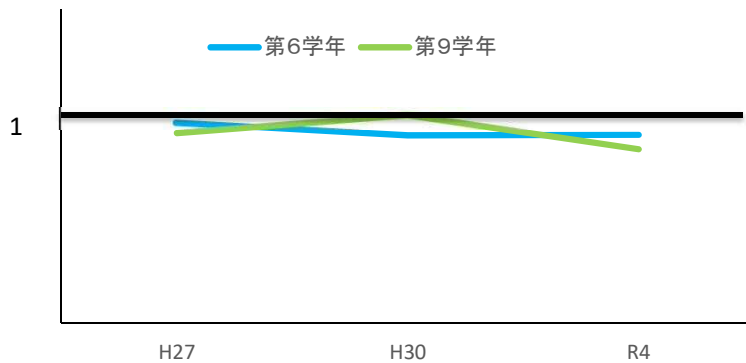
○国語・数学において  
全国平均に達していない。

○数学においては令和  
3年度より、大きく下  
降している。

• 第9学年 数学 経年変化



• 理科 経年変化 (H27・H30・R4に実施)



**理科**

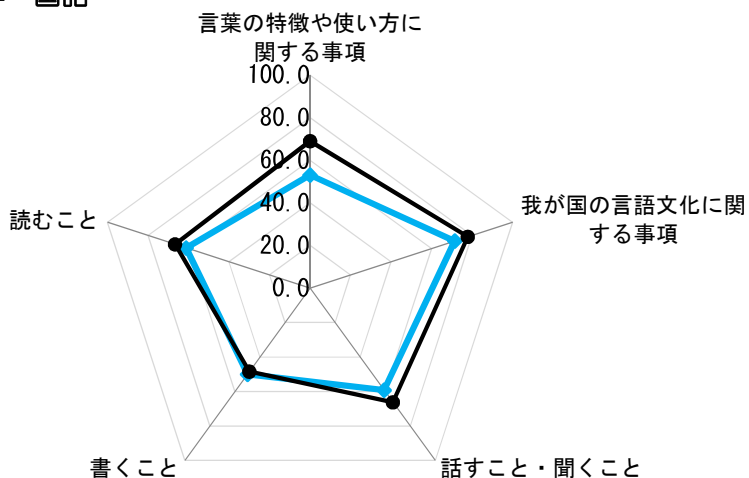
○全国平均に達してい  
ない。

○第9学年においては  
平成30年度より下降し  
ている。

③国語における学習指導要領の内容の平均正答率の状況（％）

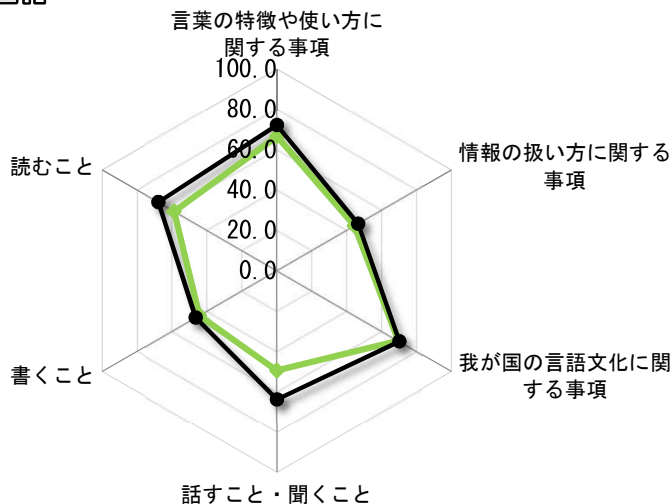
【 — ; 能勢町第6学年、 — ; 能勢町第9学年、 — ; 全国】

・第6学年 国語



○「書くこと」については全国平均を上回った。  
 ○「言葉の特徴や使い方に 関する事項」の項目では、正答率が全国を大きく下回った。文の中で漢字を正しく使う問題（ろくが・はんせい・したしむ）が出題され、3問ともに全国平均を下回った。中でも「したしむ」を漢字を使って書き直す問題では、正答率が49.0%（全国；67.1%）であり、無解答率が24.5%であった。

・第9学年 国語

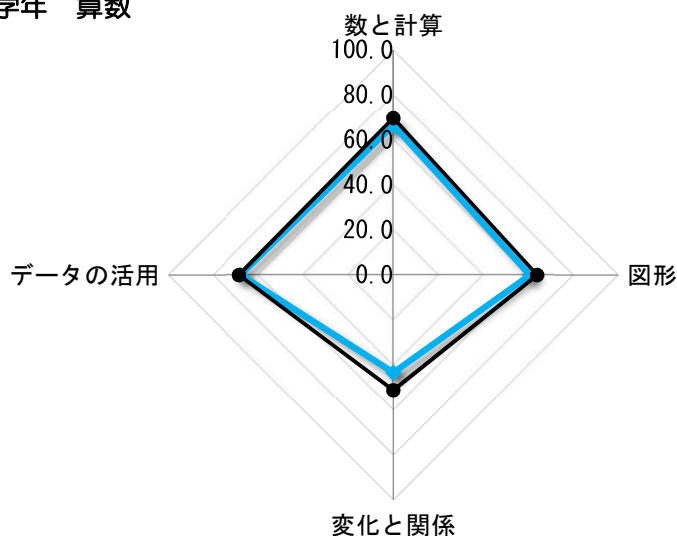


○文字のバランスや漢字の行書などに関する「我が国の言語文化に 関する事項」に関する知識及び技能を問う問題では、全国平均をやや上回った。  
 ○思考力、判断力、表現力等の中の「話すこと・聞くこと」「読むこと」において、全国平均を下回った。

④算数・数学における学習指導要領の領域の平均正答率の状況（％）

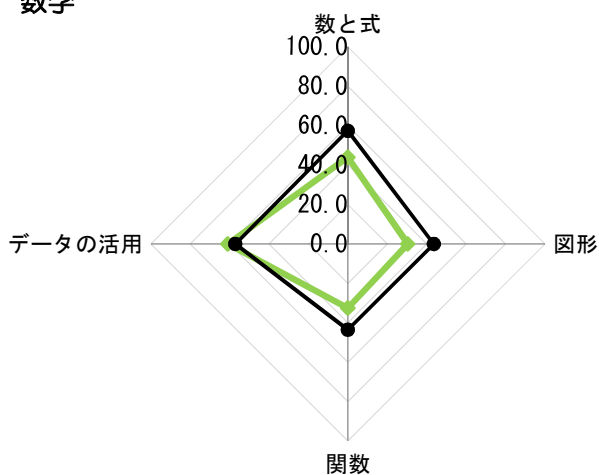
【 — ；能勢町第6学年、 — ；能勢町第9学年、 — ；全国】

・第6学年 算数



○全ての内容において全国平均正答率を下回った。  
 ○「変化と関係」の領域に関する4つの問いが出題されたが、全て全国平均を下回った。果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの果汁の量を問う問題では、正答率が51.0%（全国；64.6%）と全国平均を大きく下回った。

・第9学年 数学

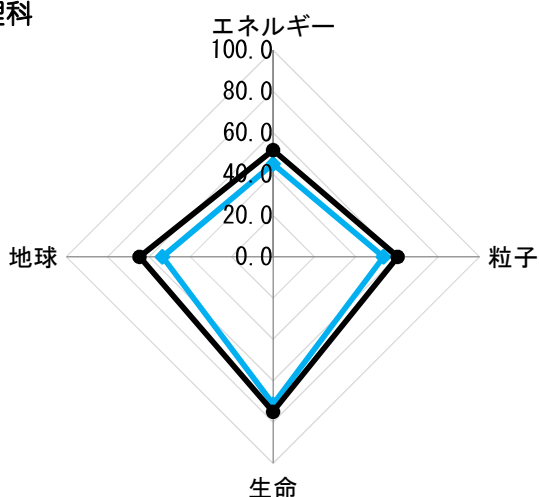


○「データの活用」においては、全国平均を上回った。  
 ○素因数分解の問題や二次方程式を解くといった「数と式」に関して5問の出題があり、全ての問題において全国平均を下回った。  
 ○「図形」の領域のうち、三角形の合同条件を書く問題では正答率が50.0%（全国；73.2%）と全国平均を大きく下回った。

⑤理科における学習指導要領の領域の平均正答率の状況（％）

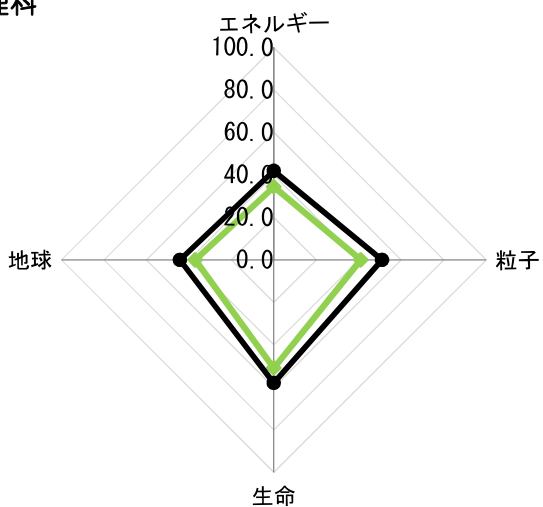
【 — ; 能勢町第6学年、 — ; 能勢町第9学年、 — ; 全国】

・第6学年 理科



○観察のまとめや、実験結果の内容をまとめて書くという記述式の問題が3問出題され、そのうち2問で全国平均を上回った。  
 ○天気や気温などについて問うような「地球」を柱とする領域の問題が5問出題されたが、そのうち4問で全国平均を下回った。

・第9学年 理科



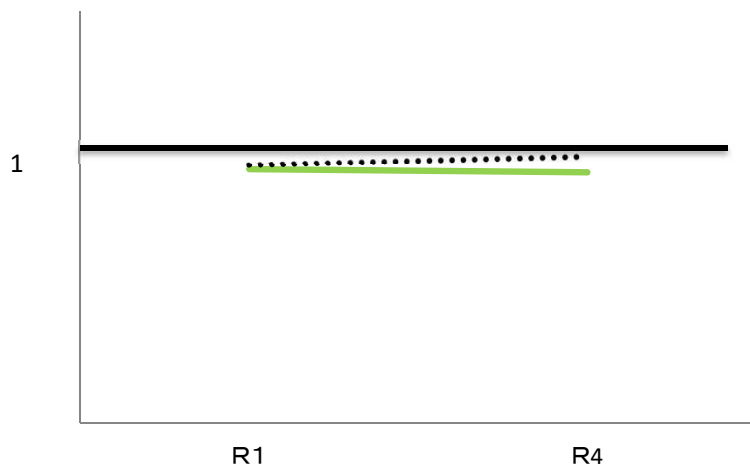
○液体や気体に関する「粒子」に関する5問及び昆虫や動物などの「生命」に関する5問において全国平均を下回った。

⑥同一集団比較（全国を1として比較）

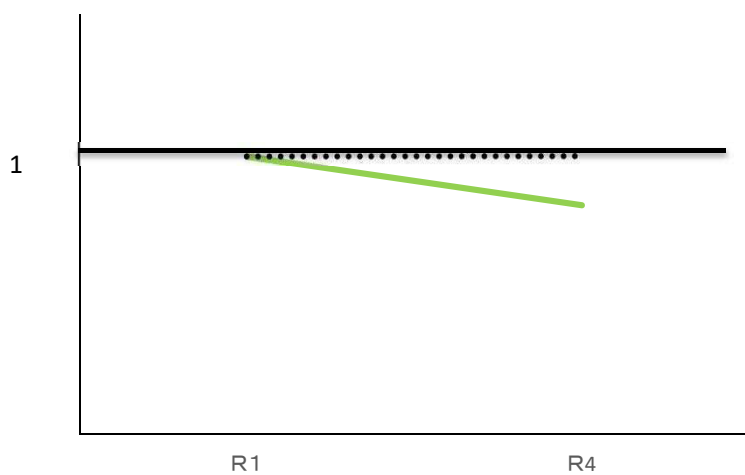
※現9年生（中学校3年生）が小学校6年生時点での結果との比較



• 国語



• 算数、数学



○2教科ともに全国平均・大阪府平均を下回った。  
○数学において、第6学年時より差が広がった。

⑦通過率（％）の状況

通過率とは、「全国学力・学習状況調査において全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における自校の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したもの」である。

	教科	R3	R4
第6学年	国語	43	75
	算数	88	66
第9学年	国語	62	88
	数学	83	25

(%)

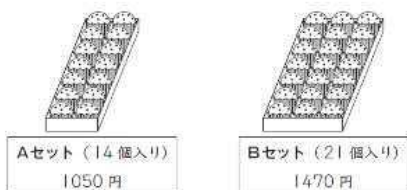
○第6学年及び第9学年の算数・数学において、全国平均正答率の高い問題に対する能勢町の平均正答率が低い。

【参考】

- ア. 第6学年 国語で通過することができなかった問題（1問／4問）  
 …読み物からの出題であり、著作権の関係で掲載することができない。
- イ. 第6学年 算数で通過することができなかった問題（2問／6問）

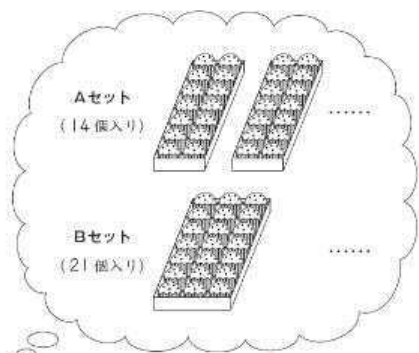
1

カップケーキが、下のように売られています。1箱14個入りで1050円のAセットと、1箱21個入りで1470円のBセットがあります。



あいりさんたちは、AセットとBセットのカップケーキを同じ個数にそろえたとき、どちらのほうが安くなるのかについて考えています。

(2) まず、あいりさんは、AセットとBセットをそれぞれ何箱か買ったとして、考えることにしました。



あいり カップケーキの個数を、14と21の最小公倍数にそろえて考えます。

14と21の最小公倍数を書きましょう。

【正答】

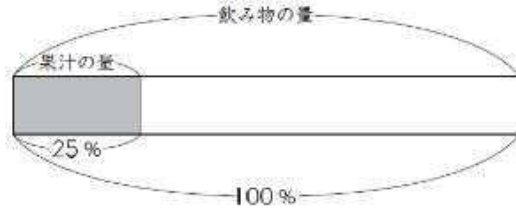
42



2

果汁入りの飲み物について考えます。

- (1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。



【正答】

1/4、25/100など

ウ. 第9学年 国語で通過することができなかった問題（1問／8問）

1

【正答例】

一 (例) 皆さん、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じませんか。

一 川口さんは、「二人の会話の一部」の線部①「呼びかけたり問いかけたりする表現としてみてはどうでしょうか」という田中さんからの助言を受け、「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分に言葉を加えて直すことにしました。あなたならどのように直しますか。裏面に書きまわすように書きなさい。

**川口さんのスピーチ**

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話することもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりがスムーズに行かないという面もあるのではないかと思います。

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたことです。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気を取られて、相手に必要最小限のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」と話してくれました。

**動画を止める**

この言葉を聞いてはっとしました。オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。これからは、オンラインで人と話すときにも、このことに気を付けて、相手とのやりとりをスムーズに行えるようにしたいと思います。

**動画を止める**

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたことです。私は、画面を通してやりとりを

**二人の会話の一部**

田中 ここまで動画を止めてもええですか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか。「やりとりがスムーズに行かない」という部分は、私も同じように感じたことがあります。この後のスピーチの内容に興味をもつことができましたのでよいと思います。

川口 ありがとうございます。

田中 ここで動画を止めてもええですか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもどうでしょうか。「やりとりがスムーズに行かない」という部分は、私も同じように感じたことがあります。この後のスピーチの内容に興味をもつことができましたのでよいと思います。

川口 ありがとうございます。

田中 オンラインでインタビューをしたときのことを入れましたが、どうでしょうか。

田中 身近な内容で共感できました。始めに話したことごとくつながっている点が良いと思います。

田中 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているの、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方を工夫してみてもどうでしょうか。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話すること」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもってもらうために、ゆっくり大きな声で話すよいのではないのでしょうか。

川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。

エ. 第9学年 数学で通過することができなかった問題（3問／4問）

2 連立方程式  $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$  を解きなさい。

【正答】

X=-1, Y=3

6 康太さんは、2つの偶数の和がどのような場合に4の倍数になるかを調べています。

$$\begin{array}{lll} 2+2=4 & 4+2=6 & 6+2=8 \\ 2+4=6 & 4+4=8 & 6+4=10 \\ 2+6=8 & 4+6=10 & 6+6=12 \end{array}$$

2+2=4, 4+4=8, 6+6=12のように、同じ2つの偶数の場合、2つの偶数の和が4の倍数になっていることから、康太さんは次のように予想しました。

4 = 4 × 1  
8 = 4 × 2  
12 = 4 × 3  
3つとも4の倍数になっているね。



予想 1

同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

上の予想1がいつでも成り立つことは、次のように説明できます。

説明 1

$n$  を整数とすると、偶数は  $2n$  と表される。  
同じ2つの偶数の和は、  
 $2n + 2n = 4n$   
 $n$  は整数だから、 $4n$  は4の倍数である。  
したがって、同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

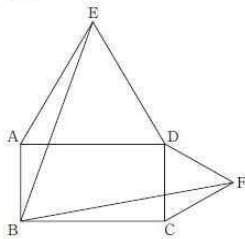
(1) 前ページの説明1では、 $n$  を整数として、同じ2つの偶数の和を  $2n + 2n = 4n$  と表しています。この式は  $n$  の値が9のとき、どのような2つの偶数の和を表していますか。「 $8 + 8 = 16$ 」, 「 $14 + 14 = 28$ 」のように書きなさい。

【正答】

- $18+18=36$
- 上記について、左辺を  $2 \times 9 + 2 \times 9$ 、又は右辺を、 $4 \times 9$  と解答しているもの

9 次の図1は、長方形ABCDの外側に辺AD, DCを1辺とする正三角形ADE, DCFをかき、点Eと点B, 点Bと点Fを結んだものです。

図1



琴音さんは、線分EBと線分BFについて次のことを予想しました。

予想

長方形ABCDの外側に辺AD, DCを1辺とする正三角形ADE, DCFがあるとき、 $EB = BF$ になる。

(1) 前ページの予想が成り立つことを、次のように証明しました。

証明

$\triangle ABE$  と  $\triangle CFB$  において、  
正三角形の3つの辺はすべて等しいから、  
 $EA = AD$   
長方形の向かい合う辺は等しいから、  
 $AD = BC$   
よって、 $EA = BC$  ……①  
同じようにして、  
 $AB = CF$  ……②  
また、正三角形の1つの内角は  $60^\circ$  であり、長方形の1つの内角は  $90^\circ$  であるから、  
 $\angle EAB = 60^\circ + 90^\circ = 150^\circ$  ……③  
 $\angle BCF = 90^\circ + 60^\circ = 150^\circ$  ……④  
③, ④より、  
 $\angle EAB = \angle BCF$  ……⑤  
①, ②, ⑤より、 がそれぞれ等しいから、  
 $\triangle ABE \equiv \triangle CFB$   
合同な図形の対応する辺は等しいから、  
 $EB = BF$

上の証明の  に当てはまる言葉を書きなさい。

【正答】

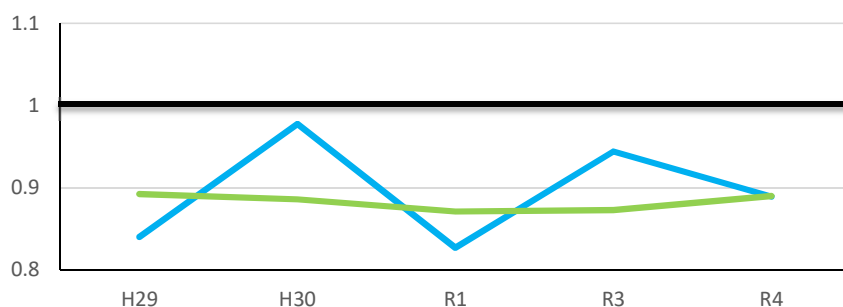
2組の辺とその間の角

⑧児童・生徒質問紙における平均回答率の国との比較（経年）

※全国を1としたときの平均回答率を算出して比較

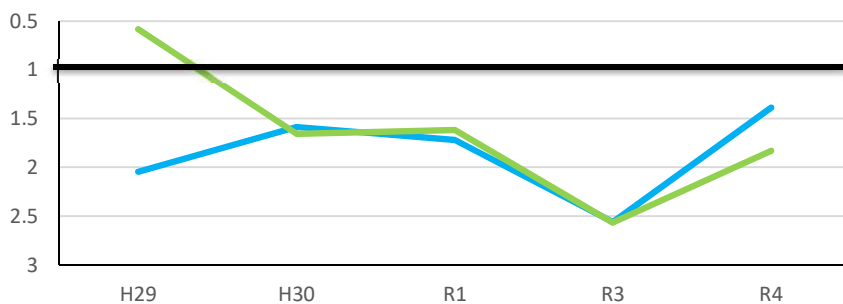
【 — ; 能勢町第6学年、 — ; 能勢町第9学年】

(1) 朝食を毎日食べる



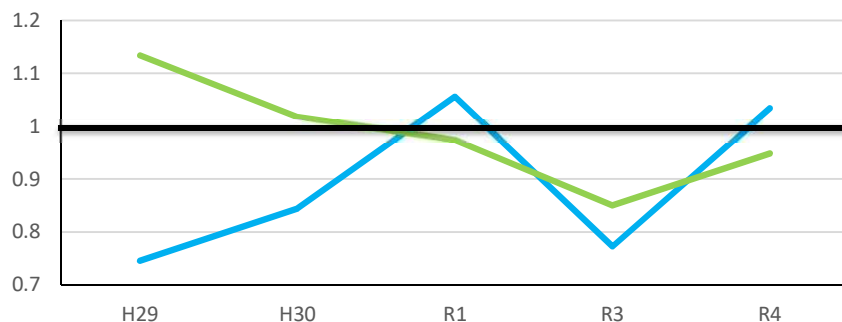
○令和3年度と比較して、第9学年において増加しているが、全国の割合よりも依然として低い。

(2) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分未満の勉強時間の割合



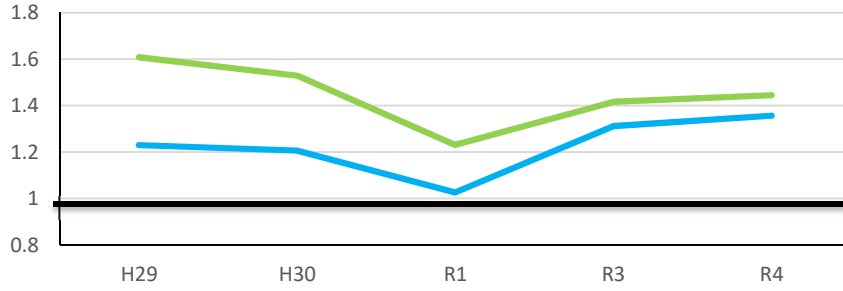
○第6学年・第9学年ともに令和3年度と比較して減少したが、依然として全国平均よりも高い状態となっている。

(3) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



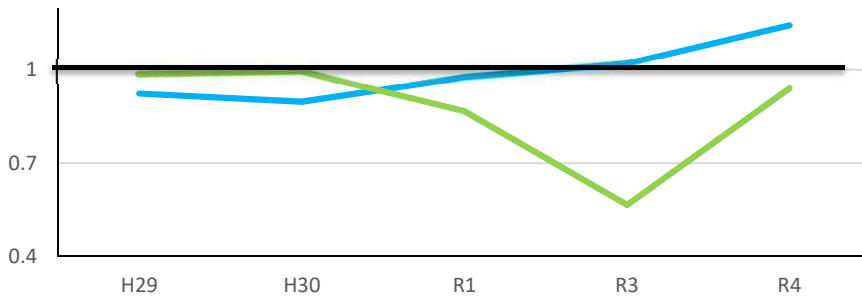
○第6学年・第9学年ともに令和3年度と比較して増加している。第6学年においては、全国平均を上回った。

(4) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



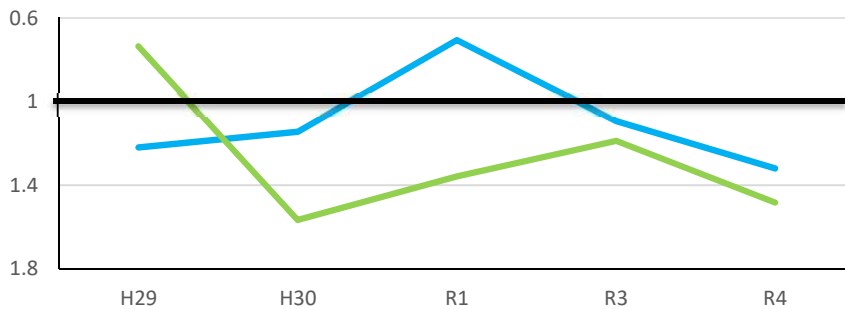
○第6学年・第9学年ともに、全国平均回答率より高い状態が続いている。

(5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



○第6学年において全国を上回った。第9学年においても全国平均との差が縮まっている。

(6) 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問に対し、「まったく読まない」と答えた割合



○第6学年・第9学年ともに、全国よりも高い割合となっている。

## 8. まとめ

### 【教科に関する調査について】

今年度の本町の結果から見える課題と今後の指導の重点として2つのことを示す。

#### 課題① 基礎的な知識・技能の定着

7⑦で記載した通過率や学校からの分析等から、基礎的な知識・技能の定着に課題が見られる。国語と算数に関して『授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか』と尋ねた項目では『よくあてはまる』と答えた能勢町の第6学年の児童は、8ポイント程度、全国平均を上回っている。このことから、基礎的な知識・技能を日常生活に関連付けて考えさせる場面を各教科及び各単元で計画的に設定することで、基礎的な知識・技能の定着が図られると考える。このことに加え、これまで取り組んできた朝学習、モジュールの時間（1回15分程度の学習）、授業の最初に行う振り返りの時間など、学習したことに関して習熟させていく時間において、ICTを活用するなど、子どもたちの意欲が向上し、楽しく学ぶことができるようにしながら、学力向上を図ることが大切であると考え。

#### 課題①に対する今後の指導の重点

- ◎日常生活に関連付けて考えさせる場面を各教科及び各単元で計画的に設定
- ◎ICTを活用するなど子どもたちの意欲の向上を図りつつ定着を図る取組の推進

#### 課題② 必要な情報を読み取り、論理的に考え、表現すること

昨年度からの引き続きの課題と言える。一方で、昨年度との違いとして、情報の読み取りについては、算数・数学における「データの活用」の数値から見て、全国と同等あるいは3ポイントほど上回っている。同様に国語科における前期課程「読むこと・書くこと」領域、後期課程「書くこと」領域において、昨年度より全国との差が縮まり、3～10ポイントの伸びが見られる。これは昨年度より国語科中心に取り組んでいる「読むこと」を中心とした研究の成果が出ているものと考え。今後は、論理的に考え、表現することに重点を置いた指導を実施する必要がある。論理立てて文を構成していくことや、複数の文章や資料を結び付けて読み取ることに加え、それに対する意見や感想を分けて書かせる場面を設定する。また、昨年度より行っている条件を踏まえて、文で表現する活動を積み重ねる。後期課程を中心に取り組んでいる問題解決型学習を、学校全体で積極的に取り入れることが課題解決のポイントになると考える。

#### 課題②に対する今後の指導の重点

- ◎論理立てて文を構成する場面の設定
- ◎意見や感想を分けて書く活動の機会の増加

## 【生活習慣や学習環境に関する質問紙調査】

本町の課題として挙げられていた家庭学習の時間において伸びが見られた。第6学年及び第9学年で、家庭での学習時間が30分未満の児童生徒が減少し、家で計画を立てて勉強していると回答した児童生徒が増加している。これは近年、能勢ささゆり学園として自主学習に力を入れてきた成果が表れ始めているものと考えられる。一方で、第6学年及び第9学年で家庭の学習時間が2時間以上と回答した児童生徒の割合は全国と比べ、5ポイント以上少なく、特に第9学年では大きな開きが見られる。現在1時間以上学習していると回答している児童生徒の学習時間を伸ばしていく取組が必要である。

また、今年度の質問紙調査で顕著な項目として、『話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる』と感じている児童生徒の割合が、第6学年及び第9学年で昨年度と比べ15ポイント以上上昇し、全国を大きく上回っている。

さらに、教科に関する調査における無解答率を見ると、第6学年、第9学年とも大阪府・全国と比べ無解答者が少ない結果となっており、粘り強く学習に取り組む姿勢が見受けられる。

これは、家庭学習の伸びとも関連し、児童生徒の学習意欲の向上を表しているものと考えられる。学校と家庭が更に連携することで、児童生徒の学ぶ意欲の向上を図り、学力向上につなげていきたい。

昨年度課題であった『いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う』における第9学年の数値が全国に近い数値となり、第6学年では上回る結果となった。日頃の人権教育の成果が表れているものと思われる。引き続き、能勢町で大切にしてきた人権教育を基盤とした活動に注力し、子どもたち全員が安心して学ぶことができる場として「能勢ささゆり学園」を発展させていくとともに、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を育てていきたい。

### 今後の指導の重点

- ◎学校と家庭の連携の強化
- ◎人権教育の充実



9. 学校による分析結果

《6年生・国語》

① 最も課題のある問題

三 鳥谷さんは、「文章2」を読み、習っている漢字がひらがなになっていた——部ア、イ、ウを漢字に書き直すことにしました。

次の——部アを漢字でいねいに書きましょう。

南さんは、みんなにそうじ用具の正しい使い方を教えてほしいという思いをもち、正しく使うことができている字級の様子をア、ろくがして、各字級にしようかいたそうです。

次の——部イを漢字でいねいに書きましょう。

そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことをイ、はんせいしました。

次の——部ウを漢字でいねいに書きましょう。

運動が苦手な人もウ、したしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各字級にしようかいたしたいです。

●平均正答率と無解答率の状況(%)

	平均正答率	無解答率
能勢町	ア、42.9 イ、26.5 ウ、49.0	ア、6.1 イ、12.2 ウ、24.5
大阪府	ア、63.5 イ、56.2 ウ、65.4	ア、8.4 イ、10.3 ウ、14.7
全国	ア、65.2 イ、58.7 ウ、67.1	ア、8.1 イ、10.2 ウ、14.7

課題解決に向けて（具体的な指導方法）

漢字の書き取りという単純な問題にもかかわらず、録画(42.9%)、反省(26.5%)、親しむ(49.0%)と低い正答率となった。漢字検定が2～4年生となり、5年生の漢字の学習が定着していない児童の割合が高い。解決に向けては、①漢字ドリルの学習などに丁寧に取り組ませること、②ミニテストにおいて基準点を決め、再テストに取り組むことを通じて定着を促すこと、③既習漢字を思い出す機会を作ることなどが考えられる。作文や普段のプリントにおいて、平仮名を使う児童が多いため、積極的に漢字を使用することを様々な場面で呼びかけていく。

② 学年の傾向

全体の正答率を見ると高い児童と低い児童で二極化している。大阪府の正答率と比較すると、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られ、全体的にやや低い結果となっているものの、「書くこと」については全国平均正答率を上回っている。

③ ①②の課題・傾向を受けての改善策

漢字や言葉の力において課題が見られるため、①で記載した指導を行う。さらに言葉については、週末に取り組ませているeライブラリの宿題等で、積極的に取り組ませるようにする。

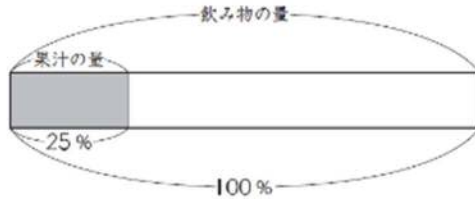
## 《6年生・算 数》

### ① 最も課題のある問題

2

果汁入りの飲み物について考えます。

- (1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。  
飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。



### ●平均正答率と無解答率の状況（％）

	平均正答率	無解答率
能勢町	63.3	4.1
大阪府	69.3	4.2
全 国	71.1	3.9

#### 課題解決に向けて（具体的な指導方法）

百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題だが、割合に関しては苦手意識が強いのか、正答率が低かった。6年生になっても百分率を使用する問題が出て来るため、「もとにする量」と「比べられる量」の判断の仕方をきちんと押さえ、小数から%に直す練習などにも朝学習プリントなどで取り組ませる。

### ② 学年の傾向

全体の正答率を見ると高い児童と低い児童で二極化している。全体的に大阪府の平均正答率と比較してやや低い結果であり、特に「変化と関係」分野に課題が見られる。

### ③ ①②の課題・傾向を受けての改善策

割合の問題に限らず、既習事項を忘れてしまう傾向が強い。宿題や自主学習等で復習問題を含め様々な問題に出合わせ、取りこぼしなく点数を取れるようにしていく。

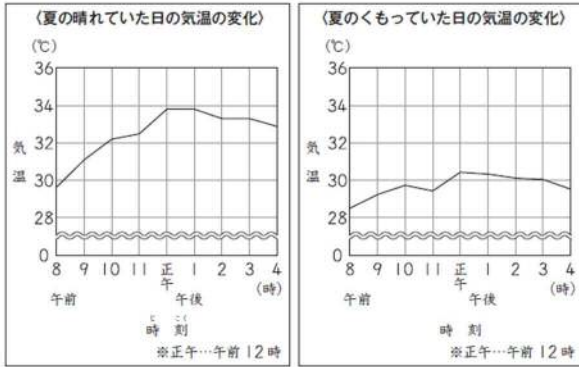


# 《6年生・理科》

## ① 最も課題のある問題

4 よしこさんたちは、気温の変化について話し合っています。

よしこさん 4年生の学習で、春や夏は、下のグラフのように、晴れだと気温の変化が大きく、雨やくもりだと気温の変化が小さいということがわかったね。冬でも同じかな。



よしこさんたちは、冬の気温の変化の仕方をまとめたあと、話し合いました。

よしこさん 冬の気温の変化の仕方について、昼の気温だけで、夜の気温について調べていないね。

じろうさん 夜の気温についても調べてみよう。「冬の夜の気温は、どのように変化するか。」という【問題】を解決していこう。

よしこさん 晴れている昼の気温は、正午（午前12時）過ぎごろに最も高くなるから、晴れている夜の気温は、午前0時過ぎごろに最も低くなると思うな。気温の変化の仕方は、晴れた夜の方が大きいと思う。

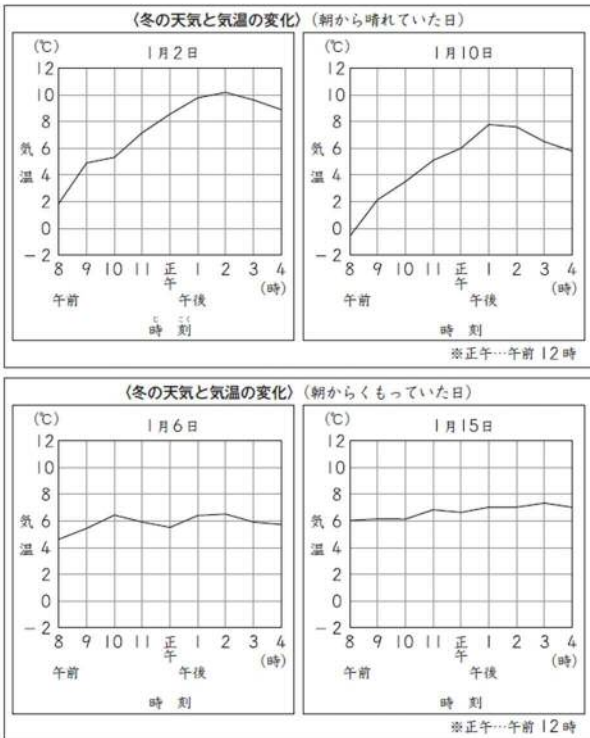
「冬の気温の変化の仕方は、天気によって変わるのか。」という【問題】が見つかったよ。自動で記録する温度計を使って調べよう。



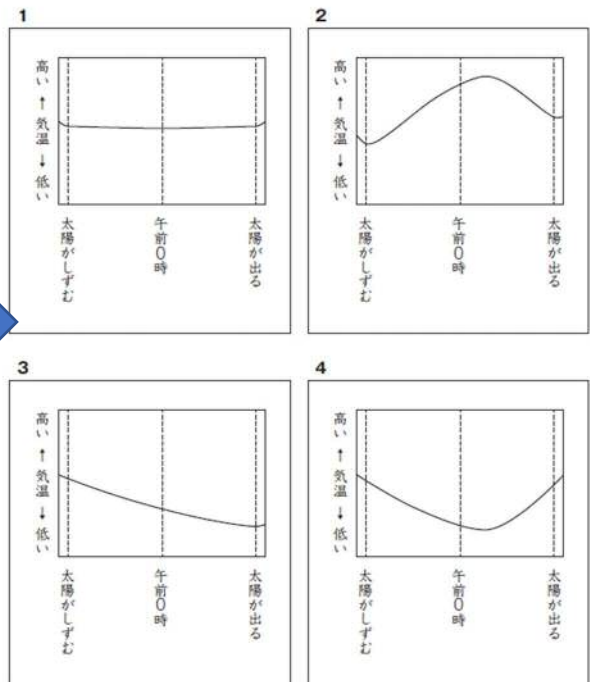
じろうさん

じろうさん 夜は、太陽が出ていないから、晴れていても、くもっていても、気温は変化しないと思うよ。

よしこさんたちは、冬の天気と気温について調べ、天気によって、下のよう整理をしました。



(2) じろうさんの下線部の考えが正しければ、冬の夜の気温は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



●平均正答率と無解答率の状況（％）

	平均正答率	無解答率
能勢町	44.9	0.0
大阪府	62.0	1.4
全 国	64.5	1.3

課題解決に向けて（具体的な指導方法）

2人の会話文で示されたことをもとに正しいグラフを選ぶ問題である。グラフの意味を理解できれば、正しいグラフを選ぶことができると思われるが、必要のない情報に目を向けてしまい、判断を誤った児童が多いと考えられる。実験結果や言葉の中から、必要なことを読み取る練習問題に取り組みさせる必要がある。

② 学年の傾向

理科全体で見るとほぼ大阪府の平均正答率と同等であるが、「地球を柱とする領域」においては、特に課題が見られる。

③ ①②の課題・傾向を受けての改善策

単元テスト以外に理科のテスト問題を解く機会が少ないが、授業の中で「なぜ」を思考させる場面を多く取り入れたり、間違えた問題を次に間違わないようしたりして、学びを振り返る時間を積極的に確保していく。

《9年生・国 語》

① 課題のある問題

- 1 国語の時間に取り組むスピーチの練習の場面で、自分の動画を見ながらクラスメートと協議をする問題。二は会話の内容の把握（論理展開）を問う問題。三は条件に従って表現を工夫して書く問題。
- 3 物語ベースの随筆の読解。三は話の展開が理解できているかを「おれ」の心情を追う形で確認する問題。

※共通の課題の傾向が見られるため3問取り上げた。

1

二 「二人の会話の一部」で田中さんは、――線部②「始めに話したこととつながっている点が良い」と述べていますが、これを具体的に説明したものと最も適切なのを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 インターネットの「便利さを実感」していることの例として、総合的な学習の時間での自分の経験を挙げている点が良い。
- 2 インターネットの「便利さを実感」していることの例として、友達と話してくれた言葉を挙げている点が良い。
- 3 「やりとりをスムーズに行いにくい」ということの例として、総合的な学習の時間での自分の経験を挙げている点が良い。
- 4 「やりとりをスムーズに行いにくい」ということの例として、友達と話してくれた言葉を挙げている点が良い。

三 「二人の会話の一部」に――線部③「他の部分も話し方を工夫してみます。」とありますが、あなたならどの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「川口さんのスピーチ」のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書くこと。

条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

3

三 次のAからCまでの「おれ」の行動や心情を、話の展開に沿って順番に並べ替えるのとどのようになりますか。に並べ替えて書きなさい。

A 昔のことについて、母と電話で押し問答をする。

B 息子の遊ぶ様子を見ながら、不意に妙なつかしさにとらわれる。

C 息子への申し訳なさを募らせつつ、目の前の息子を頼もしく思う。

●平均正答率と無解答率の状況（％）

	1二		1三		3三	
	平均正答率	無解答率	平均正答率	無解答率	平均正答率	無解答率
能勢町	44.4	0.0	35.6	15.6	44.4	0.0
大阪府	60.5	0.2	46.0	21.4	61.5	1.3
全 国	65.1	0.1	51.8	16.2	62.0	1.0

### 課題解決に向けて（具体的な指導方法）

#### 【課題と考えられる問題の解答状況】

これらの3問のうち、1二、三は「話すこと・聞くこと」に関する出題となっているが、いずれも本文の内容が正確に読み取れていなければ正答にたどり着けない問いである。3三についても、随筆の文章の全体像が把握できていないと正答しづらい問いである。特に1に関しては、動画のスピーチ内容の途中でコメントが入るなど、複数の文字情報を同時に処理する必要があり、ある程度の量の文章を読み切るスタミナが必要である。

仮に「話すこと・聞くこと」の力に課題があるとするならば、1二よりも1三の問いの方が、全国平均とのポイント差が開くであろうと考えられることから、1二から1三にかけて5ポイント差が縮まったということは、そもそも本文の読み取りに課題があったと考えられる。

#### 【課題解決に向けた指導方法】

こういった課題は以前から把握しているところであり、文章量の多い課題への対応や、複数の情報を同時に処理する力を鍛える取組は、昨年度からも継続して取り組んでいる。昨年度1月のチャレンジテストの三、四がそれぞれ今回の出題と同じ傾向の問題であるが、前回は大阪府平均と20ポイント以上差があった問いが2問、15ポイント以上だと更に2問あったところから、今回はここで取り上げた2問に収まっていることを考えると力をつけてきていると判断できる。しかし、他の力に比べるとまだまだ課題が残っている状況であるので、今の取組を継続して更に力をつけていきたいと考える。

## ② 学年の傾向

①でも述べたように、長い文章・複数示された資料を最後・細部まで読み切るスタミナがつききっていないという点が大きな課題である。その解決策の一つとして語い力をはじめとした知識量を増やすことや、トレーニングで慣れていくことも大切だと考える。知識を問う出題の正答率も伸びが見られ、力をつけてきていると考えられる。これが国語以外の教科の学習でも生かされるようになれば、更に力は伸びていくだろうと考える。

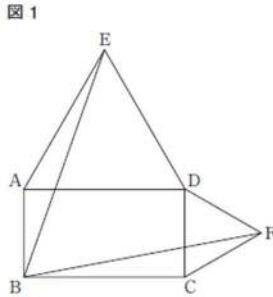
## ③ ①②の課題・傾向を受けての改善策

長い文章や複数の資料を読むスタミナをつけるべく、定期テストや実力テストに文章量が多い出題や、複数の資料から読み取る出題をし、思考力等を問う出題の正答率でその力の伸びを確認していきたい。

《9年生・数学》

① 最も課題のある問題

9 次の図1は、長方形ABCDの外側に辺AD, DCを1辺とする正三角形ADE, DCFをかき、点Eと点B, 点Bと点Fを結んだものです。



琴音さんは、線分EBと線分BFについて次のことを予想しました。

予想

長方形ABCDの外側に辺AD, DCを1辺とする正三角形ADE, DCFがあるとき、 $EB = BF$ になる。

●平均正答率と無解答率の状況 (%)

	平均正答率	無解答率
能勢町	4.3	52.2
大阪府	13.4	42.4
全国	12.5	38.5

(2) 琴音さんは、次の図2や図3のように、21ページの図1の長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えた図をかきました。このときも、 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ が成り立つので、 $EB = BF$ がいえます。琴音さんは、 $EB = BF$ 以外にも、辺や角についていえることがないか調べました。

図2

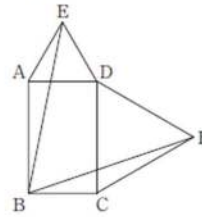
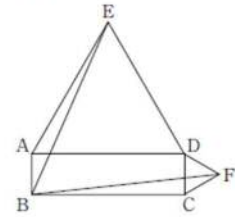


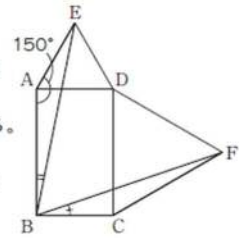
図3



調べたことから、琴音さんは、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になると予想し、次のように考えました。

琴音さんの考え

- ①  $\angle EBF$ について、  
 $\angle ABC = 90^\circ$ より、  
 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ がいえれば、  
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ$ となり、  
 $\angle EBF$ が $60^\circ$ になることがいえる。
- ②  $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることは、 $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ からわかる等しい角と、  
 $\angle EAB = 150^\circ$ を用いて示すことができる。



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ を示すことで、長方形ABCDの辺の長さを変えても、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることが説明できます。琴音さんの考えの②にある $\triangle ABE \cong \triangle CFB$ と $\angle EAB = 150^\circ$ はすでにわかっていることとして、 $\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることを下の説明の [ ] に示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成しなさい。

説明



$\angle ABE + \angle CBF = 30^\circ$ になることが示せたので、  
 $\angle EBF = 90^\circ - (\angle ABE + \angle CBF)$ より、  
 $\angle EBF = 90^\circ - 30^\circ = 60^\circ$ になる。

課題解決に向けて（具体的な指導方法）

解答が記述式であることと、学んできた基本的なパターンに当てはまらないことが無解答（52.2%）や誤答（43.5%）となってしまったと考えられる。

初見の問題にも取り組めるよう、数学的な知識の定着を図ることはもちろん、自身の考えを他者に筋道立てて伝える活動を普段から授業に取り入れていきたい。

② 学年の傾向

授業内容を理解しようと、授業をまじめに受けている集団である。問題に取り組む際、教員に質問する場面も見られる。ただ、生徒同士での話し合い活動は端的な発言が多く、充実させる余地がある。また、授業外での学習時間の確保は乏しい。

③ ①②の課題・傾向を受けての改善策

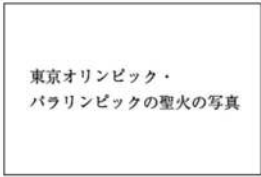
発言が単語だけにならないよう、発言の模範を示しながら話し合い活動を充実させる。宿題などをこまめに設定し、意識の向上を図る。



《9年生・理 科》

① 最も課題のある問題

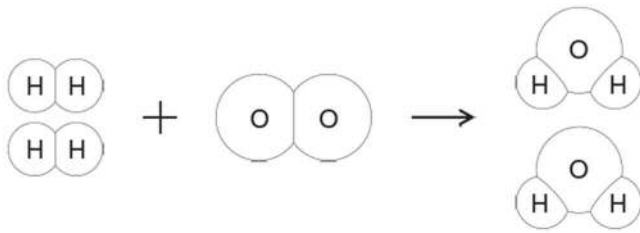
- 3 東京オリンピック・パラリンピックの聖火の燃料に水素が使われたことから、水素の利用について、理科の授業で科学的に探究しました。(1)から(3)までの各問いに答えなさい。



水素の燃焼を化学反応式で表す場面

温暖化の原因と考えられている二酸化炭素を出さない燃料として、水素が使われました。

下の分子のモデルで表した図を参考にして、水素の燃焼を化学反応式で表しましょう。



(1) 水素の燃焼の化学反応式を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア  $4\text{H} + 2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$
- イ  $\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow \text{H}_2\text{O}$
- ウ  $2\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O}$
- エ  $\text{H}_2 + \text{O}_2 \rightarrow \text{H}_2\text{O}_2$

● 平均正答率と無解答率の状況 (%)

	平均正答率	無解答率
能勢町	58.7	0.0
大阪府	77.7	0.2
全 国	80.1	0.1

課題解決に向けて（具体的な指導方法）

分子と原子との違いを理解することができていない生徒が多く見られる。この分野において原子のモデルで考えることは重要である。それを化学式、化学反応式で表すことがこの問題で試されている力である。この問題の課題解決に対してのアプローチとして、モデルを使って正しい化学式の表し方を指導していきたい。例えば、選択肢に出てくる4Hという化学式をモデルで表してみたり、またH<sub>2</sub>OからH原子を取ってみたりすることなど、視覚的なアプローチが必要であると考える。

② 学年の傾向

本校と全国の平均正答率を比較すると全体的にやや低い結果であり、特に「粒子」を柱とする領域において全国平均正答率を大きく下回っている。3(1)の水素の燃焼において、水素が酸素と化合し水を生成するという化学反応式の分子モデルを表す問題の正答率が低いことから、水溶液中に存在している元素やその動きについてのイメージができていないことが原因だと考えられる。

③ ①②の課題・傾向を受けての改善策

生徒が、積極的かつ継続的に日々の授業や課題に取り組めるように促していきたい。また、理科の現象においては目には見えない現象が多く、既習事項をどのようにして新たな知識と結びつけるのか、どのようなイメージを持って新たな知識を習得するかが重要である。モデル実験や身近な現象を紹介し、新たな知識を自身の中でイメージを持って習得できるように、「視覚的」に体験させる、考える授業づくりに取り組んでいきたい。



## 10. 学校による児童生徒質問紙分析

【児童生徒質問紙】・・・今年度の能勢ささゆり学園における重点的な取組に係る質問事項

### ○質問1

(7) 自分には、よいところがあると思いますか

#### ○割合（あてはまると答えた割合）

前期課程	【 49.0 】%	後期課程	【 15.6 】%
大阪府	【 41.1 】%	大阪府	【 34.3 】%
全国	【 39.4 】%	全国	【 36.0 】%

#### ○分析・今後の方向性

一昨年度まで課題であったこの項目が、前期課程において2年続けて全国・大阪府を上回ったのは、肯定的評価活動等、日頃からの自己肯定感を上げる取組が定着してきたことによるものと考えられる。後期課程においては昨年度とほぼ同等の結果となっている。義務教育学校となったことで、行事等で後期課程の生徒が前期課程の児童と関わる機会を多く設定し、後期課程の生徒の自己肯定感を育てていきたい。

### ○質問2

(13) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

#### ○割合（あてはまると答えた割合）

前期課程	【 95.9 】%	後期課程	【 77.8 】%
大阪府	【 83.4 】%	大阪府	【 81.6 】%
全国	【 83.9 】%	全国	【 82.6 】%

#### ○分析・今後の方向性

昨年度後期課程において、全国との差が見られ課題となっていた項目である。今年度は全国の値に近づき、「どちらかといえばあてはまる」と答えた割合を含めると全国を上回っている。前期課程でも全国を上回っている。引き続き、人権教育を基盤とした教育活動に力を入れていく。

### ○質問3

(32) これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

#### ○割合（ほぼ毎日と答えた割合）

前期課程	【 53.1 】%	後期課程	【 33.3 】%
大阪府	【 24.5 】%	大阪府	【 21.3 】%
全国	【 26.7 】%	全国	【 21.6 】%

#### ○分析・今後の方向性

前期課程・後期課程ともに全国の値を大きく上回っている。ICTを活用した授業の推進を目指し、Jamboardでの意見交流やFormsを活用してのアンケート実施などに取り組んできた。ICT機器が学習の役に立つと考えている児童生徒の割合も高い。引き続き、ICTの効果的な活用について、研究を進めていきたい。